

トピックス 2005 年 後期

1 リンパ節の腫脹による高熱

2 交通事故による後遺症（むちうち症）

3 肘の痛みについて

4 足関節捻挫について

リンパ節の腫脹による高熱

20歳代前半の女性

7月の上旬に風邪のような症状が始まり、内科に通いはじめたところ、頸リンパ節と腋窩リンパ節が腫れていることを指摘される。「風邪のウイルスでも入ったのでしょうか」と言われ投薬を受けていました。しかし、2週間ほどたっても高熱は引かず、決まって午後9時頃になると39.5 前後の高熱となってしまう。その都度解熱剤を服用し、少し熱は下がりますがなかなか熱がぬけきれず、また翌日の夜になると高熱になってしまいます。そのため、仕事にも行けず7月の下旬に当院を紹介され、来院されました。

問診をしたのち、左頸リンパ節・右腋窩リンパ節の腫脹を確認しました。左頸リンパ節は、かなり大きく腫脹しています。また、連日高熱になるため解熱剤を服用しているとのこと。

「熱が出てつらいから解熱剤を飲むのですが、これだけ毎日のように飲んでいるのに治らないでしょ。かえって解熱剤を飲み続けることで、熱を体の中に押さえ込んでしまい、治らなくしています。ですから、出来るだけ飲まないで我慢してください。鍼で熱が出ないようにしますから」と説明しつつ、1回目の治療を終えました。

「少し体が楽になったようです。熱は今は無いようです。有難うございました」とお礼を言われました。「今日のはじめての治療ですから、また時間がたつと元の状態に戻ってきますが、続けて行くと治りますから心配しないでくださ

い。出来るだけ薬を飲まないように、そして腹七分程度に食事量をひかえてください。そうしていくと、自分の力で治していく力がでてきますよ」

二日後に来院。

「まだ夜9時頃になると39 を超える熱が出ます。つらいので解熱剤を飲んでしまいました」

「判りました。つらい時は飲んでください。もう少しの辛抱です。体が元の良い状態に戻るにはもう少しかかりますから」

4回ほど治療を継続、8月の中旬には熱は全く出なくなりました。その後、冷え性なので8月いっぱい継続治療を行い、治療を終えました。

交通事故による後遺症(むちうち症)の症例

50歳代前半の男性

当院へは事故後2週間後くらいで来院されました。過去にも交通事故により2度治療をさせていただいており、今回で3回目の治療となりました。2年間で3回の追突事故にあわれ、今回が一番状態が悪いようです。

症状は肩甲間部とくに左側に自発痛が強く腫脹していて、左手肘から指先にかけて痺れが強く出ていました。特に手首から薬指・小指にかけてもっとも痺れが強い様子です。

「すぐには楽になれないかも知れませんが、少しずつ変わっていきますから少し辛抱して通ってください。今回で3回目ですから、今までより少し時間がかかりますよ」と説明しつつ治療を始めました。

初回の治療で「大分楽になったよ」と言われましたが、「時間がたつと痛みが出てきます。でもこの治療を続けて行くことでだんだんと楽になりますから、仕事で忙しいでしょうが通院してください。まっ—前の治療体験でお判りでしょうが」

週2回から3回のペースで通院してくださいました。約2ヶ月ほどで肩甲間部の痛みは殆ど無くなり重い感じに変わってきましたが、天候によってはその重さが強くなることがありました。

しかし、左手の痺れは手首から薬指・小指にかけて痺れが残っています。

更に治療を継続し、肩甲間部の痛みは消失。

約3ヶ月半頃に左手のしびれも殆ど感じなくなりました。約4ヶ月の治療期間がかかりましたが、完治となりました。この期間が長いのかそれとも短いのかの判断は皆様にお任せしますが、鍼灸によっても“むち打ち症”を治癒させる

ことが出来ます。

よく何年たっても交通事故の後遺症で苦しんでおられる方がいらっしゃいますが、鍼灸治療も是非治療手段のひとつに加えてください。

肘の痛みについての症例

40歳代前半の男性

右ひじ内側に痛みが強く、整形外科に半年以上通院していましたが痛みが引かず、更に悪化してしまい当院に来院されました。初診時にはボールペンを持って痛み、文字を書くにもきつい状態でした。

右ひじ内側は冷えていて軽く圧迫するだけで痛みが強く出るほどです。「だんだん痛くなり、痛みで仕事があまり出来ません。何とか痛みをとってください」ひじは冷えて痛みが出ていますから少し時間がかかります。辛抱して通ってください。治りますよ」と伝えつつ、治療を開始しました。

1回目の治療で痛みが大分和らぎ信じられないような表情をしていましたが、「何日かするとまた痛みが出てきますが、この治療を繰り返していくことによって治っていきます。ですから一喜一憂しないでください」

当初五日に一回の割で治療を始めました。1ヵ月後には痛みは少し残るが殆ど仕事には支障ないほどになりましたが、一日の仕事を終えると痛みが出ていました。

3ヵ月後には痛みが殆どなくなりました。丁度仕事の関係でも通院できなくなり、一ヵ月後に再来院となりました。少し痛みが出ていましたが、仕事には支障のない程度でした。

再来院後一ヵ月後には完治し、治療を終えました。

来院当初は、ボールペンも持てないほどでしたが、次第に痛みで曲げられないひじも、曲げられるようになっていきました。また、治療をするたびに痛みで曲げられないひじが楽に動かせるようになって驚いておられたようです。

整形外科に通ってもなかなか治らないような人は是非、一度鍼治療を検討してみてください。目からうろこが落ちるような体験となりますよ。

初めから鍼治療をと言う人は勿論大歓迎です。

足関節捻挫の症例

高校2年生の男子

高校のサッカー部の男子生徒で「明日大事な試合があるので何とか試合に出て走れるようにしてください」と紹介されて来院されました。診ますと右足関節から指にかけて捻挫のため倍くらいに腫れ、しかも熱を持った状態です。

普通ならとても明日の試合には出られない状態です。「今までに似たような状態で翌日に痛みが引き試合に出れたケースもあるけれど、必ずそうなるとは限らないよ。でも精一杯治療しますから回復力に期待しましょう。その代わり、次のことは必ず守ってください。そうしないと絶対に間に合わなくなってしまいますから。まず第一に、腫れている足を絶対に冷湿布等で冷やさないこと。次に腫れている足に包帯等で締め付けないこと。そうすることによって、患部が早く治るようになるから」と言って治療を開始しました。

所定の本治法・標治法を終え、足関節周囲の患部と健康部との間に施灸して初回に治療を終えました。

まだ足関節は腫れている状態ですが、痛みが大分引いた感じで歩くのに少し楽になっている様子です。「先ほど言ったことを守ってください。試合が終わってからまた来て下さい」と言って治療を終えました。

三日後に来院。「無事試合に出れて思いっきり走れました。ありがとうございます」とお礼を言われました。足を診ますと、また少し腫れていて痛みが出ています。初回同様の治療をし、その後二回の治療をして治療を完了しました。

一般的には、捻挫と言うと患部を冷やすために冷湿布をし、包帯等で固定するのが常識ですね。それからすると、今回の治療は非常識と言えるかも知れませんが、でも、見る方向を変えるとそうでもないのです。なぜでしょうか。湿布をし、固定するのは、患部の炎症を抑えその分を保護するという意味では大切です。しかし、早く患部を治癒させるという観点からはどうでしょうか。つまり、体は患部を治すべく働き、その結果患部に熱が発生します。この患部の熱は体の補修にとって大切なものです。さらに、包帯等で患部を圧迫することでリンパ・血液の流れを阻害し、回復を遅らせてしまいます。

このような観点から、当院では治療させていただいております。捻挫で鍼・灸はピンとこないかも知れませんが効果はありますので、ご検討くだされば幸いです。